

2021 年度

「学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書

2022 年 7 月

学部 ..... P. 1～P. 16

大学院 ..... P. 17～P.28

発行：法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター

## 1. はじめに

2004年度から開始した「学生による授業評価アンケート」は、2005年度よりFD推進センター（現教育開発・学習支援センター）が主催する形として、これまでに17年間実施してきました。アンケートは、2009年度の期首・期中・期末の実施、教員への非公開を担保した記名式の導入を踏まえ「学生による授業改善アンケート」へ名称変更され、2014年度の秋学期よりWeb形式で実施するなど改善を図ってきました。2017年度からは、アンケート項目を5問とする大幅な改定を行い、アンケートは授業内で実施いただくよう、協力をお願いしました。

春学期期末アンケートは、2021年6月30日（水）～8月3日（火）の期間に実施しました。4期制の学部は、春学期前半アンケートとして、5月19日（水）～6月8日（火）の期間にも実施しました。秋学期期末アンケートは、2021年12月8日（水）～2022年2月8日（火）の期間に実施しました。4期制の学部は、秋学期前半アンケートとして、10月26日（火）～11月15日（月）の期間にも実施しました。

本学は法学部（市ケ谷キャンパス）、文学部（市ケ谷キャンパス）、経営学部（市ケ谷キャンパス）、国際文化学部（市ケ谷キャンパス）、人間環境学部（市ケ谷キャンパス）、キャリアデザイン学部（市ケ谷キャンパス）、デザイン工学部（市ケ谷キャンパス）、グローバル教養学部（市ケ谷キャンパス）、経済学部（多摩キャンパス）、社会学部（多摩キャンパス）、現在福祉学部（多摩キャンパス）、スポーツ健康学部（多摩キャンパス）、情報科学部（小金井キャンパス）、理工学部（小金井キャンパス）、生命科学部（小金井キャンパス）の15学部から構成され、さらに同じ学士課程として通信教育学部（法学部・文学部・経済学部から構成）が加わります。

2021年度のアンケート対象全科目数は9,794科目（春学期4,966科目、秋学期4,828科目）でした。そのうち、アンケートに回答があった科目数は8,662科目（春学期4,514科目、秋学期4,148科目）であり、結果として春学期18.6%、秋学期14.4%の回答率（回答した学生数／回答が想定される全学生数の百分率）を得るアンケートを取得することができました。すべてのアンケートデータは巻末に年度、春学期、秋学期別の実数として収録しています。

本アンケートの対象は本学学部で開講する全科目ですが、少人数制やゼミや研究の授業形態など明確な理由から2021年度は1,959科目のアンケートを非実施としました。非実施科目を科目種別で見ると、講義では360科目（講義全体の7%）、演習では964科目（演習全体の40%）、語学では250科目（語学全体の7%）、実験では127科目（実験全体の32%）、実技では20科目（実技全体の7%）であり、卒論では238科目（卒論全体の79%）であり、少人数で行う語学科目やゼミや研究がメインとなる科目で多くなります。これらの非実施科目では、独自のアンケートを行うなどの個別対応が行われています。

本年度アンケートを無事に終了できたのは、教職員ならびに各関係者のみなさまのご協力なしでは成し得ないことであり、「授業改善アンケート」を含め教育開発・学習支援センターの活動へのご理解について心から感謝を申し上げます。また、本年度アンケート結果の集計と分析を記した本報告書が、関係者各位の本学における「教育および学びの質の向上」の一助になれば幸甚に存じます。

## 2. 全学集計結果について

本報告書では、5段階の選択回答を求めた問1～問4の単純集計とそれぞれの分析、問3の回答に対する問1と問2のクロス集計とそれぞれの分析、問4の回答に対する問1、問2、問3のクロス集計とそれぞれの分析を記しました。

教育開発・学習支援センターの主たる目的である「教育および学びの質の向上」ですが、教職員側と学生側とはその捉えるポイントに少しギャップがあります。そこで、問1～問3に関わる「教員の教授」と問4に関わる「学生の修学」に分け、教職員側もしくは学生側から見える本学授業の現状を理解しやすく示しました。具体的には、「教員の教授」では理解度を問う問3を中心とした分析、「学生の修学」では満足度を問う問4を中心とした分析を行っています。

また、問1～問4の単純集計は学年別、科目種類別、履修選択別、担当教員別、科目設置主体別で集計し、全学平均値と比較した分析を行っています。さらに、アンケート回答傾向の経時推移を見るため、問1～問4の回答平均値と回答学生数の経時変化を示しました。

## 3. 教員の教授に関するアンケート回答について

### (1) 授業の工夫に対する学生の受け止め

「学生による授業改善アンケート」の問1は、授業の工夫に対する学生の受け止めに5段階評価として尋ねています。問いは「この授業では、積極的な工夫がされていましたか。」とし、それに続き、回答へある程度のイメージをもってもらうために「例えば、熱意、授業方法、板書法、スクリーンの見やすさ、話し方、課題や主体的な学びへの促しなど。(5段階評価でご回答ください)」を追記しています。全体の回答割合を見ると、大変工夫していた「5」と「4」を合わせた74.5%の学生が授業に工夫があったと受け止めていました。一方、あまり工夫をしていない「1」と「2」を合わせた6.0%の学生は授業の工夫を求めていました。平均値は春学期4.05、秋学期4.09、中央値は春学期・秋学期ともに4であり、全体的には授業に工夫があったと評価したことになります。

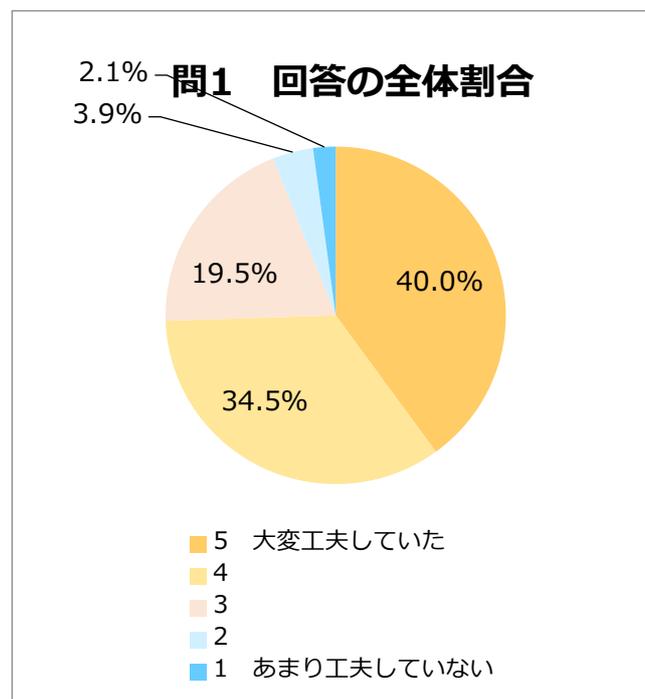


図1

## (2) 授業外での学習への取り組み

「学生による授業改善アンケート」の問2は、授業外での学習への取り組みを5つの選択肢から尋ねています。問いは「この授業に関しては、授業時間につき、平均してどれくらいの授業外学習をしていますか。」とし、それに続き、回答へある程度のイメージをもってもらうために「例えば、予習・復習、課題、授業内容に関する図書・情報収集など、友人や教員との討論や質問も含む。」を追記しています。全体の回答割合を見ると、週1時間以上の授業外学習を行った学生は55.5%でした。一方、授業外での学習をほとんど行っていない学生は14.1%でした。大学設置基準は、学生が予習・復習に相当の時間をかけることを前提に到達目標をさだめて授業を行うように規定しています。また、2012年8月に中央教育審議会が公表したいわゆる「質的転換答申」では、「事前準備・授業受講・事後展開を通して主体的な学修に要する総学修時間の確保が不可欠」との認識が示されており、2104年12月に公表された答申でも、アメリカの大学生に比べて日本の大学生の学習時間が短いことが指摘されています。それらを踏まえると、今後も、学生の授業外学習時間をいかに確保していくかが課題になると思われます。

上の2021年度の結果を2019年度および2020年度秋学期の結果と比較します。2020年度春学期は授業改善アンケートを実施しませんでした。2019年度、2020年度秋学期において、週1時間以上の授業外学習を行った学生は、それぞれ32.0%、59.4%でした。一方、授業外での学習をほとんど行っていない学生は38.1%、11.9%でした。2019年度から2021年度までの3年間、授業外学習の時間は大幅に増加したことになります。この結果は、コロナ禍のオンライン講義において、平常時の対面授業よりも、授業外学習の時間を多く必要したことを示唆しています。

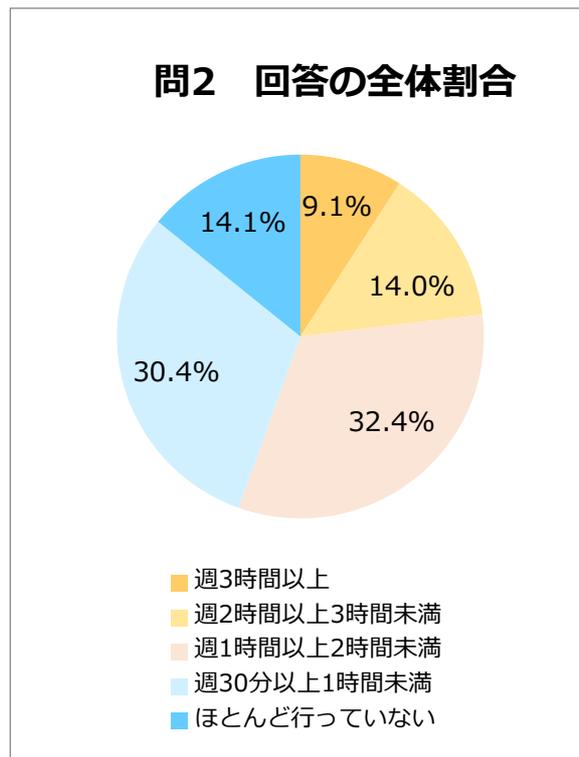


図2

## (3) 講義内容の理解度

「学生による授業改善アンケート」の問3は「この授業内容を理解できましたか。(5段階評価でご回答ください)」として講義内容の理解度を尋ねています。概ね理解できた学生に当たる「5」「4」の回答割合は71.3%でした。一方、理解が困難であった「1」「2」を回答した学生は6.4%でした。平均値は春学期3.94、秋学期3.98、中央値は春学期・秋

学期ともに4なので、全体的には理解できたと自己評価したことになります。

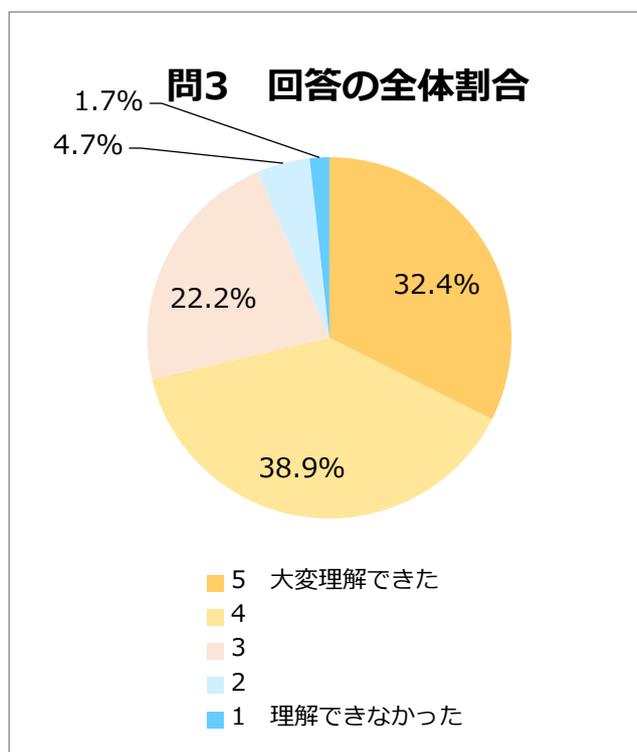


図3

#### (4) 理解度と教授方法に関する回答との関連

講義内容の理解度と授業の工夫に対する学生の受け止めの関連を調べるため、問3（理解度）と問1（授業の工夫の受け止め）のクロス集計を行いました。問3（理解度）と問1（授業の工夫の受け止め）ともに「5」と回答した学生が25.2%、ともに「4」と回答した学生が20.7%、ともに「3」と回答した学生が10.5%でした。視覚的に理解しやすくするため人数が多いセルを緑に、人数が少ないセルを白色になるようにカースケールを施しました（以下、同様）。

理解度（問3）と授業の工夫（問1）が、無関係（独立）であるかどうかを（カイ二乗検定を用いて）調べると、無関係ではないことがわかりました。またクラメールの連関係数を計算すると0.44となり、強い関係があることがわかりました（クラメールの連関係数は、>0.25で強い関係、0.1~0.25で関係あり、0.1>で弱い関係を示す）。授業の工夫が原因で理解度が結果であるという因果関係を厳密に検証してはいませんが、逆の因果関係、第三の要因による疑似相関ではなく、因果関係を示唆していると考えられます。

表1

問1 × 問3 (%)		問1 授業の工夫					計
		5	4	3	2	1	
問3 理解度	5	25.2	5.8	1.2	0.2	0.1	32.4
	4	11.8	20.7	5.7	0.6	0.1	38.9
	3	2.6	7.2	10.5	1.5	0.5	22.2
	2	0.3	0.7	1.9	1.3	0.5	4.7
	1	0.1	0.1	0.3	0.3	1.0	1.7
計		40.0	34.5	19.5	3.9	2.1	100.0

次に、講義内容の理解度と授業外での学習への取り組みの関連を調べるため、問3（理解度）と問2（授業外学習時間）のクロス集計を行いました。高い割合を示したのは、問3（理解度）に「5」から「3」、問2（授業外学習時間）に「3」もしくは「2」と回答した学生で、全体の59.4%を占めます。理解度（問3）と授業外学習時間（問2）が、無関係（独立）であるかどうかを（カイ二乗検定を用いて）調べると、無関係ではないことがわかりました。またクラメールの連関係数を計算すると0.09となり、弱い関係があることがわかりました。

表2

問2 × 問3 (%)		問2 授業外学習時間					計
		5	4	3	2	1	
問3 理解度	5	4.2	4.8	10.3	9.0	4.0	32.4
	4	2.9	6.1	13.2	12.3	4.4	38.9
	3	1.4	2.4	7.4	7.2	3.8	22.2
	2	0.4	0.5	1.1	1.5	1.2	4.7
	1	0.2	0.2	0.3	0.4	0.7	1.7
計		9.1%	14.0	32.4	30.4	14.1	100.0

#### 4. 学生の修学に関するアンケート回答について

##### (1) 講義の満足度

「学生による授業改善アンケート」の問4は「この授業を履修してよかったですか。(5段階評価でご回答ください)」として講義の満足度を尋ねています。概ね満足した学生に当たる「5」「4」の回答割合は75.4%でした。一方、不満を示す「1」「2」を回答した学生は6.3%でした。平均値は春学期4.11、秋学期4.15、中央値は春学期・秋学期ともに4なので、全体的には満足したと評価したことになります。不満を示す「1」「2」を回答した学生の割合6.3%は看過できなく、その要因を明らかにしていく必要があると考えられます。

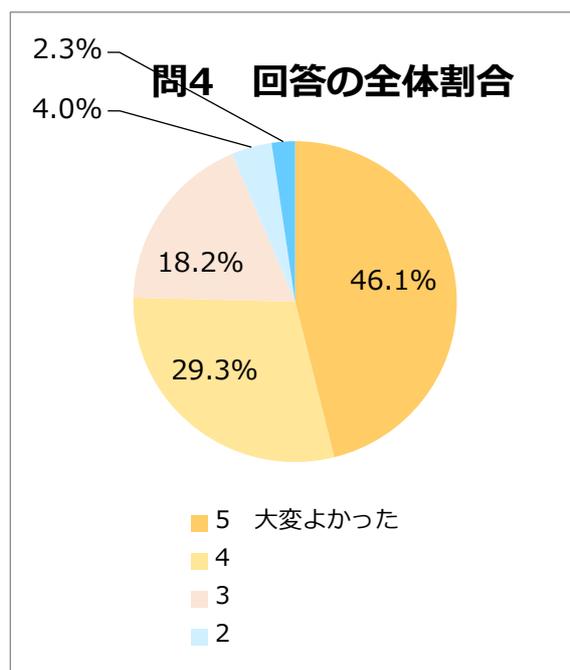


図4

## (2) 満足度と教授方法に関する回答との関連

講義の満足度と授業の工夫に対する学生の受け止めの関連を調べるため、問4（満足度）と問1（授業の工夫の受け止め）のクロス集計を行いました。問4（満足度）と問1（授業の工夫の受け止め）に対して、ともに「5」と回答した学生が33.3%、ともに「4」と回答した学生が18.2%、ともに「3」と回答した学生が10.5%でした。

満足度（問4）と授業の工夫（問1）が、無関係（独立）であるかどうかを（カイ二乗検定を用いて）調べると、無関係ではないことがわかりました。またクラメールの連関係数を計算すると0.51となり、強い関係があることがわかりました。授業の工夫が原因で満足度が結果であるという因果関係を厳密に検証してはいませんが、逆の因果関係、第三の要因による疑似相関ではなく、因果関係を示唆していると考えられます。

表3

問1 × 問4 (%)		問1 授業の工夫					計
		5	4	3	2	1	
問4 満足度	5	33.3	10.8	1.9	0.1	0.1	46.1
	4	5.4	18.2	5.2	0.4	0.1	29.3
	3	1.1	5.0	10.5	1.4	0.3	18.2
	2	0.1	0.4	1.6	1.4	0.4	4.0
	1	0.1	0.1	0.3	0.5	1.3	2.3
計		40.0%	34.5	19.5	3.9	2.1	100.0

次に、講義の満足度と講義内容の理解度との関連を調べるため、問4（満足度）と問3（理解度）のクロス集計を行いました。問4（満足度）と問3（理解度）に対して、ともに「5」と回答した学生が29.2%、「4」と回答した学生が20.2%、「3」と回答した学生が12.1%でした。

満足度（問4）と理解度（問3）が、無関係（独立）であるかどうかを（カイ二乗検定を用いて）調べると、無関係ではないことがわかりました。またクラメールの連関係数を計算すると0.53となり、強い関係があることがわかりました。理解度が原因で満足度が結果であるという因果関係、逆の因果関係、第三の要因による疑似相関のいずれであるかは明確ではなく、因果関係の検証には、さらなる研究が必要と思われまます。

表4

問3 × 問4 (%)		問3 理解度					計
		5	4	3	2	1	
問4 満足度	5	29.2	14.5	2.2	0.1	0.0	46.1
	4	2.5	20.2	6.2	0.4	0.0	29.3
	3	0.6	3.7	12.1	1.7	0.2	18.2
	2	0.1	0.4	1.4	1.9	0.3	4.0
	1	0.1	0.1	0.4	0.6	1.2	2.3
計		32.4%	38.9	22.2	4.7	1.7	100.0

最後に、講義の満足度と授業外での学習への取り組みの関連を調べるため、問4（満足度）と問2（授業外学習時間）のクロス集計を行いました。高い割合を示したのは、問4（満足度）に「5」もしくは「4」と回答し、問2（授業外学習時間）に「3」もしくは「2」と回答した学生は、全体の47.4%を占めます。満足度（問4）と授業外学習時間（問2）が、無関係（独立）であるかどうかを（カイ二乗検定を用いて）調べると、無関係ではないことがわかりました。またクラメールの連関係数を計算すると0.08となり、弱い関係があることがわかりました。

表5

問2 × 問4 (%)		問2 授業外学習時間					計
		5	4	3	2	1	
問4 満足度	5	5.6	7.0	14.8	13.2	5.5	46.1%
	4	1.9	4.4	10.0	9.4	3.6	29.3%
	3	1.0	1.9	6.1	6.0	3.2	18.2%
	2	0.3	0.4	1.0	1.3	0.9	4.0%
	1	0.3	0.2	0.5	0.5	0.8	2.3%
計		9.1%	14.0	32.4	30.4	14.1	100.0

## 5. 各種別におけるアンケート回答傾向について

### (1) 学年別

アンケート回答総数 84,423 件のうち、1年生は 45,798 件、2年生は 22,742 件、3年生は 11,995 件、4年生は 3,792 件、その他（通信教育課程）は 96 件でした。各学年別の回答集計実数は巻末の学部データ（1）に示しています。各学年におけるアンケート回答傾向について、問1から問4のそれぞれの回答を「1」～「5」の平均値として算出し、レーダーチャートで全体と比較しました。

1～3年生は全体とほぼ同じ傾向を示していました。4年生は全ての項目が1～3年よりも高い（各平均値 授業の工夫：4.2 授業外学習：2.9 講義の理解度：4.1 授業の満足度：4.3）という傾向が見られました。その他は全ての項目が高い傾向（各平均値 授業の工夫：4.4 授業外学習：3.3 講義の理解度：4.3 授業の満足度：4.4）を示していました。ただし、その他の有効回答数は他の学年と比較すると特に少ないことを考慮する必要があります。

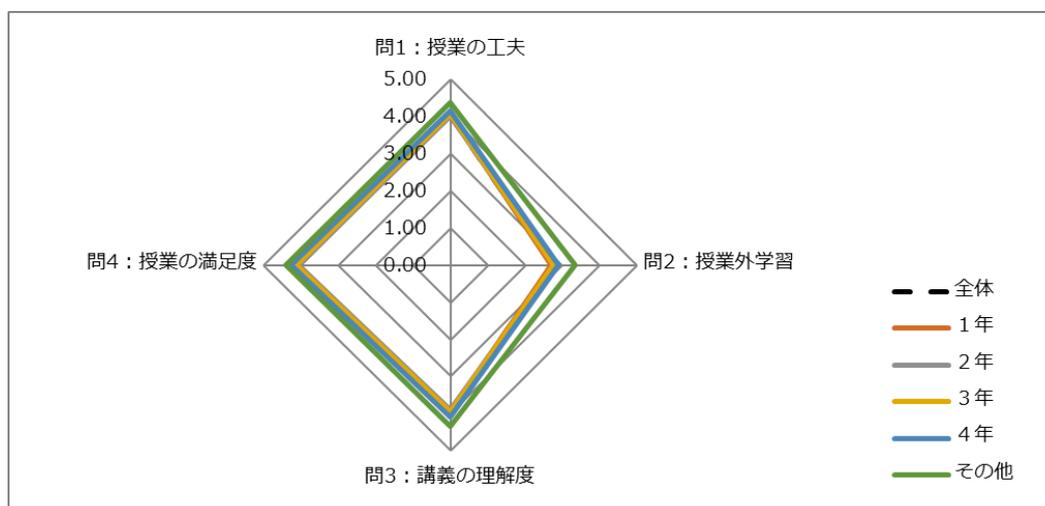


図5

## (2) 科目種類別

アンケート回答総数 84,423 件のうち、講義は 56,149 件、演習は 5,510 件、語学は 17,571 件、実験は 2,753 件、実技は 1,809 件、卒論は 66 件でした。また、講義の 56,419 件の受講者数規模別内訳は、25 人未満は 3,247 件、25-49 人は 8,074 件、50-99 人は 16,579 件、100-199 人は 14,206 件、200-299 人は 6,413 件、300 人以上は 7,630 件でした。各科目種別の回答集計実数は巻末データ (1) に示しています。各科目種別におけるアンケート回答傾向について、問 1 から問 4 のそれぞれの回答を「1」～「5」の平均値として算出し、レーダーチャートで全体と比較しました。

講義 (合計)、語学は全体とほぼ同じ傾向を示していました。実験は、授業外学習の項目が全体より大幅に高い傾向 (3.7) を示しています。卒論、演習は全ての項目が高い傾向を示していました。一方、実技は講義の理解度、授業の満足度が全体よりも高い傾向を示し、昨年度と異なる傾向を示しました。これは、コロナ禍から平常授業に戻りつつある中で、対面授業が復活し、対面で直接実技について学ぶ機会が増えたことによるものと推察されます。また、学年別の結果では学年が高くなるにつれて評価が高くなる傾向があることが観察されていますが、それは高学年になると演習や実験があるためであることが推察されます。

講義の受講者数規模別で見ると、25 人未満は全ての項目がやや高い傾向 (各平均値 授業の工夫 : 4.2 授業外学習 : 2.8 講義の理解度 : 4.1 授業の満足度 : 4.3) を示していました。授業規模が 25 人以上になると、授業の工夫・講義の理解度・授業の満足度の項目においては、授業規模 (全体) の傾向 (授業の工夫 : 4.1 講義の理解度 : 4.0 授業の満足度 : 4.1) と同程度でしたが、授業外学習の項目については授業規模が小さいほど高い値を示す傾向がありました。

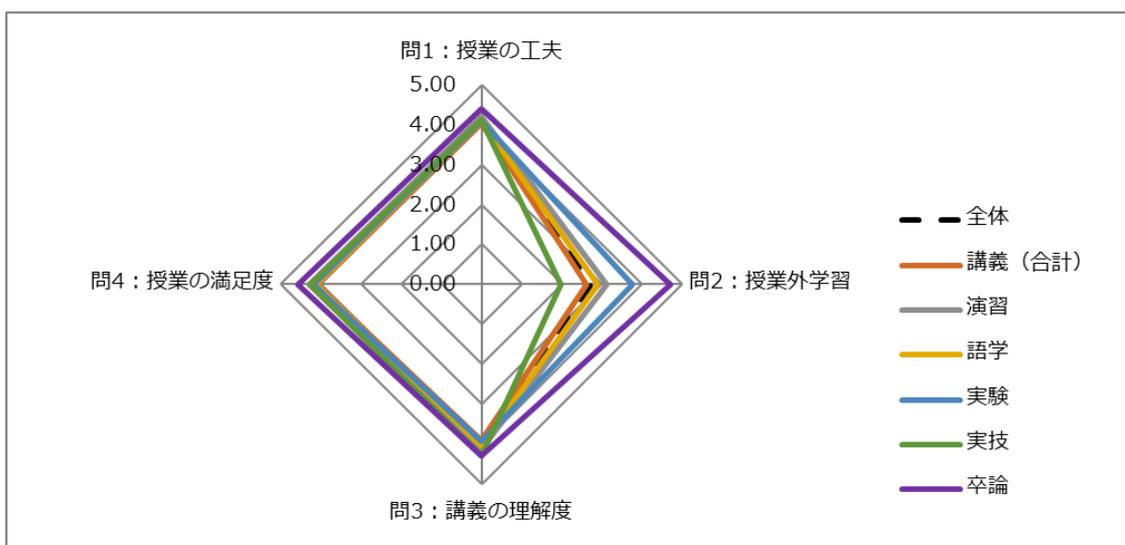


図 6

## (3) 履修選択別

アンケート回答総数 84,423 件のうち、必修の授業についての回答は 27,399 件、その他は 57,024 件でした。履修選択別の回答集計実数は巻末データ (1) に示しています。履修選択別におけるアンケート回答傾向について、問 1 から問 4 のそれぞれの回答を「1」～「5」の平均値として算出し、レーダーチャートで全体と比較しました。

必修は授業外学習時間がやや多い傾向 (平均値 2.9) を示していました。その他は全体とほぼ同じ傾向を示していました。必修の授業外学習時間がやや長いのは、単位がとれないと卒業できないので学生が努力するためであると思われます。

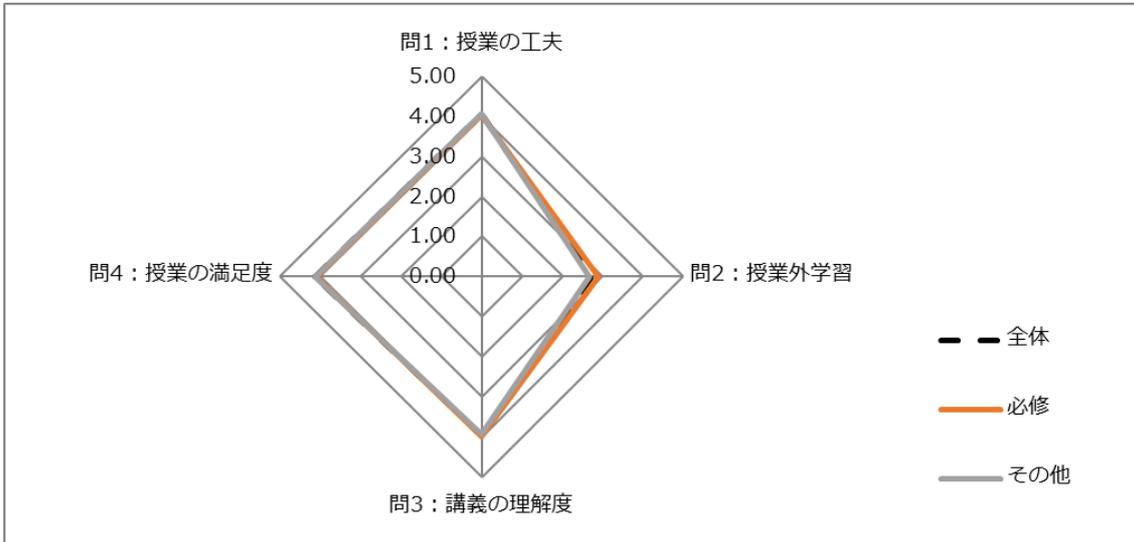


図 7

#### (4) 担当教員別

アンケート回答総数 84,423 件のうち、専任教員が担当する授業についての回答は 41,245 件、兼任教員は 43,168 件でした。担当教員別の回答集計実数は巻末データ（1）に示しています。担当教員別におけるアンケート回答傾向について、問 1 から問 4 のそれぞれの回答を「1」～「5」の平均値として算出し、レーダーチャートで全体と比較しました。

専任教員および兼任教員共に全体とほぼ同じ傾向を示していました。

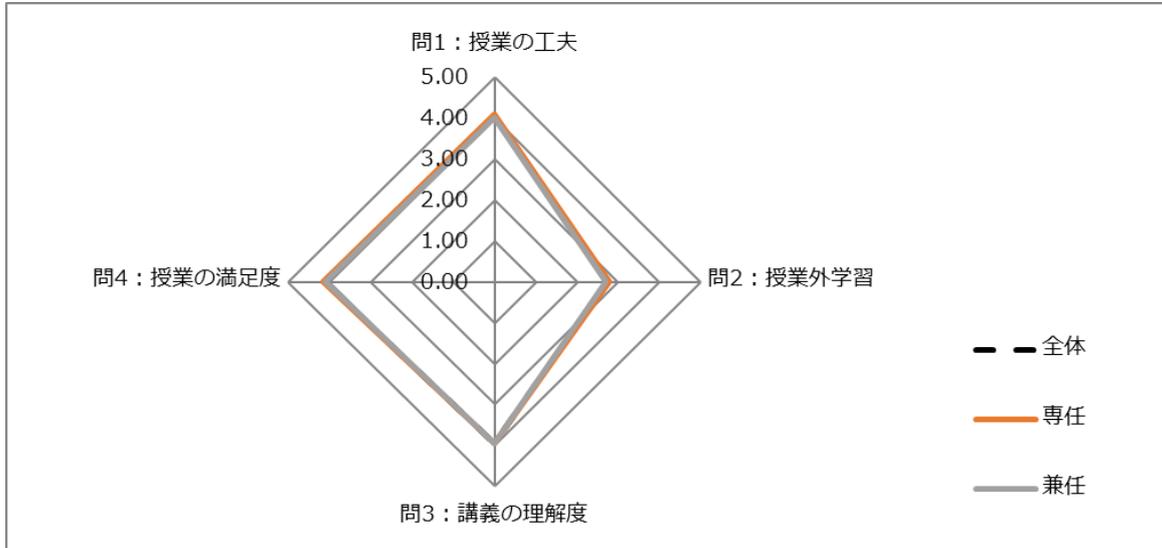


図 8

#### (5) 科目設置主体別

アンケート回答総数 84,423 件のうち、市ヶ谷学部は 19,096 件、市ヶ谷教養は 18,917 件、小金井学部は 16,358 件、小金井教養は 6,120 件、多摩学部は 20,919 件、通信教育は 2,360 件、その他（ESOP、JLP）は 653 件でした。科目設置主体別の回答集計実数は巻末データ（1）に示しています。科目設置主体別におけるアンケート回答傾向について、問 1 から問 4 のそれぞれの回答を「1」～「5」の平均値として算出し、レーダーチャートで全体と比較しました。

市ヶ谷学部・市ヶ谷教養・多摩学部は全体とほぼ同じ傾向を示していました。小金井教養・小金井学部は授業外学習

時間が多い傾向（それぞれ平均値 3.1・3.0）を示していました。通信教育は全ての項目が高い傾向（各平均値 授業の工夫：4.2 授業外学習：3.4 講義の理解度：4.0 授業の満足度：4.4）を示していました。その他も全ての項目が高い傾向（各平均値 授業の工夫：4.5 授業外学習：3.3 講義の理解度：4.4 授業の満足度：4.6）を示していました。

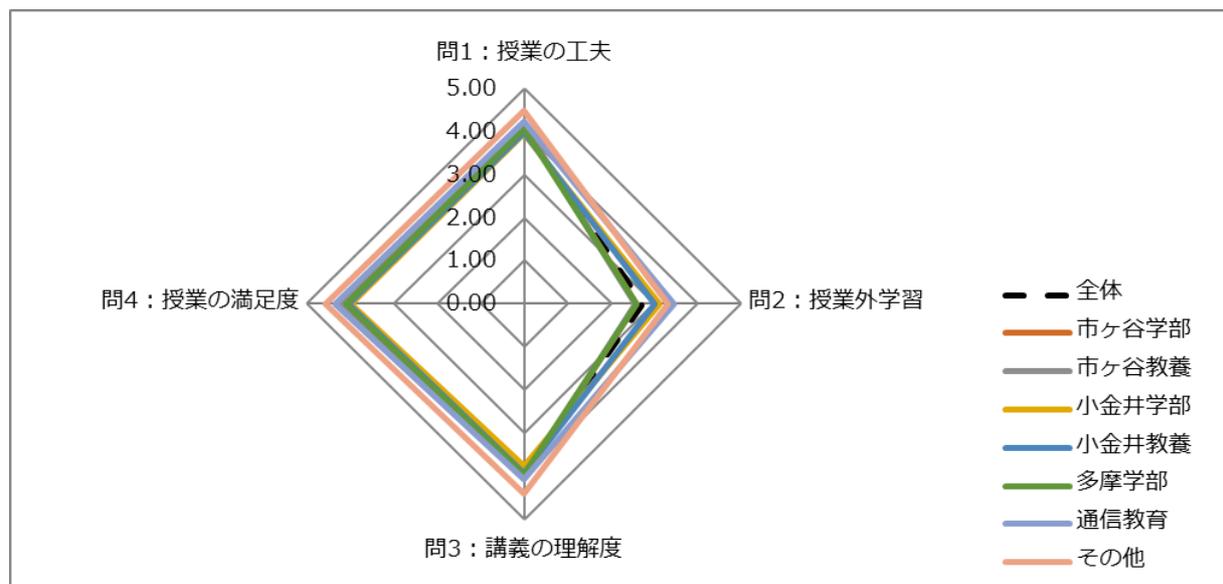


図 9

## 6. アンケート回答傾向の経時推移

回答した学生数の推移を見ると、紙媒体で授業内実施を行っていた 2014 年度春学期までは約 20,000 名超でした。アンケートを web 化し、実施時期を期間内任意で行っていました 2016 年度秋学期までは約 4,000 名に減少しました。2017 年度春学期から、web 化にフィットした新しいアンケート内容に刷新するとともに授業内実施としました。その結果、回答した学生数は増加し、2017 年度は 28,030 名となりました。2020 年度春学期は、コロナ禍初期の状況を鑑みて本アンケートは実施されませんでした。そのため 2020 年度は、秋学期に本アンケートが実施されたものの回答した学生数は 8,190 名にとどまりました。その後、2021 年度は、春学期は 10,682 名まで増えましたが、秋学期は 8,440 名と再び回答した学生数が減少しています。

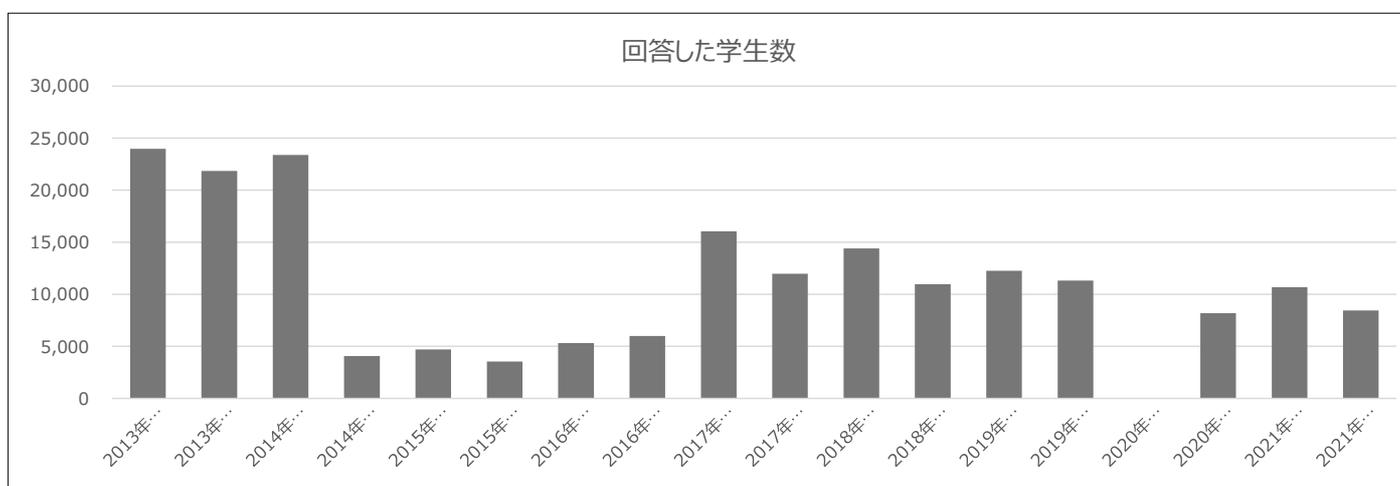


図 10

各実施時期におけるアンケート回答傾向について、問1から問4のそれぞれの回答を「1」～「5」の平均値として算出し、2017年度春学期からの経時的変化を折れ線グラフで表しました。2021年度の秋学期の授業の工夫を尋ねた問1の平均値4.1、講義内容の理解度を尋ねた問3の平均値4.0、授業の満足度を尋ねた問4の平均値4.2は、2019年度以前と概ね同程度の値を示しました。一方、授業外学習時間を尋ねた問2の平均値は、2020年度秋学期以降、2017～2019年度の平均値（2.0～2.2）よりも高くなっています（2021年度秋学期の平均値2.7）。2020年度のコロナ禍によるオンライン授業の形態の増加のためレポート等の課題が増え、そのような変化がコロナ禍がある程度収まりを見せた後も持続しているためではないかと推察されます。

表6

平均値	2018年度 春学期	2018年度 秋学期	2019年度 春学期	2019年度 秋学期	2020年度 春学期	2020年度 秋学期	2021年度 春学期	2021年度 秋学期
問1	3.84	3.91	3.92	4.01	-	3.98	4.05	4.09
問2	2.05	2.11	2.14	2.18	-	2.83	2.74	2.72
問3	3.69	3.76	3.77	3.87	-	3.88	3.94	3.98
問4	3.85	3.94	3.94	4.04	-	4.05	4.11	4.15

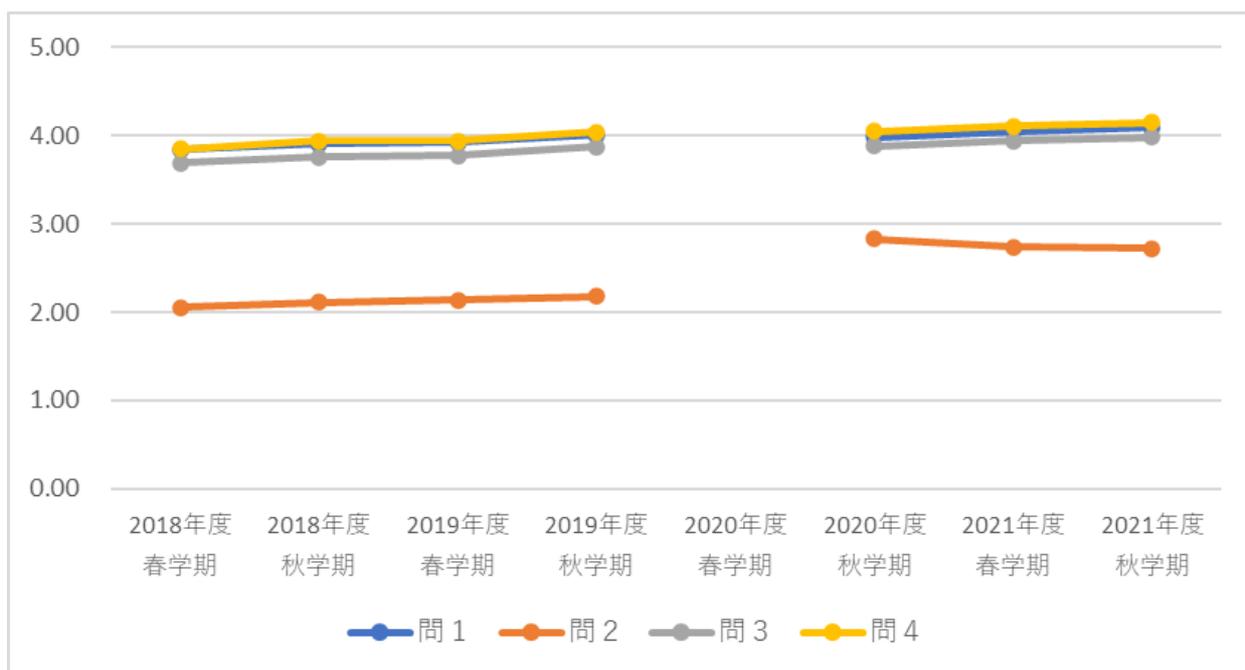


図11

## 7. おわりに

学部学生は（１）本学教員の授業に対する工夫が概ね行われている印象をもち、（２）授業外学習時間は概ね週１時間以上であり、（３）概ね理解したと感じていることがわかりました。また、理解度と授業の工夫には強い正の相関関係が考えられ、授業の工夫が理解度に影響を及ぼしていると考えられます。授業外学習時間のボリュームゾーンは週１時間以上であり、コロナ禍以前（2019年度）から学習時間が増加した昨年度のアンケート結果と同様の傾向を保っています。また2021年度の「学生生活実態調査」では、8割弱の学生が1日当たりの自習時間を1時間以上行っていると回答しており、ここでも昨年度と同様、コロナ禍以前（2019年度）と比較すると大幅に上昇した状態を保っています。この結果は、本アンケートの結果を裏付けるものです。また、非実施科目には多くのゼミ・研究などの科目が含まれており、それらに関する学習時間が反映されていない可能性があります。各学科カリキュラムを修業する上での総合的な学習時間をもっているかもしれませんが、しかし、平均的ではありますが週1時間未満の授業外学習時間は、一般的に改善されるべきポイントだと考えます。なお、昨年度と比較して、授業の工夫は概ね同程度、理解度はわずかに低下、満足度はやや上昇を示しています。理解度の上昇については、対面授業が2021年度に入ってから徐々に再開されるにともない、オンラインでは十分に行えないきめ細やかな学生への対応ができるようになったことが理由として考えられます。また、授業の工夫、理解度、満足度の間には強い相関が、授業外学習時間と理解度や満足度との間には弱い相関があることもわかりました。これらの関係についても今後の動向を検証する必要があるでしょうが、これらの学部生による評価からは、本学におけるFDがある程度積極的に推進されていると解釈できるかもしれません。

各授業が果たす目的は、所属するカリキュラム体系の位置付けにより異なる点にも留意が必要だと考えられます。また、「授業改善アンケート」の自由記述は各授業個別に活用がなされてきています。教育開発・学習支援センターでは、以下の活動が教員に対する「教育の質の向上」へのサポートに貢献できればと考えています。

- ・個別授業を支援する制度「授業リフレクションのための学生による授業参観」の提供
- ・ゼミ・研究活動の指導を支援する「ゼミ活動等を対象とした学生向けルーブリック」の提供
- ・FDセミナー等の開催
- ・英語による授業を支援する「アカデミック・サポートサービス」の提供
- ・論文やレポートに対して剽窃チェックを行うソフト「Turnitin」の提供

教育開発・学習支援センターの目的は「ファカルティ・デベロップメント（FD）を中心に、本学での主体的な教育改善と主体的な学習を効果的に支援すること」と表しています。大学での「知識・技能の習得」「知識・技能を実践・応用する能力の育成」「自ら問題の発見・解決に取り組む力の涵養」を効率的に教授するために、有益なサポートを教育開発・学習支援センターでは行ってまいります。今後とも、「授業改善アンケート」をはじめ教育開発・学習支援センターの活動へのご協力をどうぞお願い申し上げます。

お問い合わせ： 法政大学教育開発支援機構教育開発・学習支援センター (<http://www.hoseikyoiku.jp/lf/>)  
事務局 学務課教育支援課 Tel: 03-3264-4268 E-mail: kyoiku@hosei.ac.jp

## 付表 学部データ：2021年度全学集計表

問1. この授業では、積極的な工夫がされていましたか。例えば、熱意、授業方法、板書法、スクリーンの見やすさ、話し方、課題や主体的な学びへの促しなど。(5段階評価でご回答ください)

項目	回答された授業数	回答した学生数	回答総数	5 大変工夫 していた	4	3	2	1 あまり工夫 していない
<総計>	8,985	19,122	84,423	33,752	29,136	16,466	3,265	1,804
<学年別>								
1年	-	8,462	45,798	18,567	15,730	8,865	1,749	887
2年	-	5,511	22,742	8,494	8,102	4,662	948	536
3年	-	3,513	11,995	4,826	4,124	2,331	447	267
4年	-	1,586	3,792	1,802	1,161	601	118	110
その他	-	50	96	63	19	7	3	4
<科目種類別>								
講義(合計)	4,463	-	56,149	21,816	19,452	11,347	2,281	1,253
25人未満	962	-	3,247	1,585	1,031	474	97	60
25-49人	1,200	-	8,074	3,364	2,693	1,499	317	201
50-99人	1,181	-	16,579	5,950	5,987	3,530	751	361
100-199人	704	-	14,206	5,516	4,879	2,916	565	330
200-299人	241	-	6,413	2,406	2,255	1,332	252	168
300人以上	175	-	7,630	2,995	2,607	1,596	299	133
演習	1,077	-	5,510	2,604	1,760	853	184	109
語学	2,862	-	17,571	7,219	6,104	3,243	639	366
実験	232	-	2,753	1,098	1,012	507	99	37
実技	241	-	1,809	747	598	401	45	18
卒論	33	-	66	38	18	9	0	1
<履修選択別>								
必修	3,341	-	27,399	10,722	9,588	5,376	1,066	647
その他	5,644	-	57,024	23,030	19,548	11,090	2,199	1,157
<担当教員別>								
専任	3,717	-	41,245	17,100	14,368	7,585	1,399	793
兼任	5,265	-	43,168	16,647	14,765	8,880	1,866	1,010
<科目設置主体別>								
市ヶ谷学部	2,174	-	19,096	8,222	6,437	3,283	727	427
市ヶ谷教養	2,379	-	18,917	8,051	6,405	3,386	696	379
小金井学部	1,267	-	16,358	5,360	6,186	3,681	753	378
小金井教養	574	-	6,120	2,214	2,067	1,439	233	167
多摩学部	2,145	-	20,919	8,298	7,162	4,295	776	388
通信教育	323	-	2,360	1,206	696	322	74	62
その他	123	-	653	401	183	60	6	3

問2. この授業に関しては、授業時間につき、平均してどれくらいの授業外学習をしていますか。例えば、予習・復習、課題、授業内容に関する図書・情報収集など、友人や教員との討論や質問含む。

項目	回答された 授業数	回答した 学生数	回答総数	週3時間 以上	週2時間以上 3時間未満	週1時間以上 2時間未満	週30分 以上 1時間未満	ほとんど 行って いない
<総計>	8,985	19,122	84,423	7,675	11,799	27,354	25,659	11,936
<学年別>								
1年	-	8,462	45,798	3,969	6,182	14,621	14,056	6,970
2年	-	5,511	22,742	1,885	3,515	7,820	6,736	2,786
3年	-	3,513	11,995	1,256	1,501	3,771	3,803	1,664
4年	-	1,586	3,792	556	567	1,110	1,043	516
その他	-	50	96	9	34	32	21	0
<科目種類別>								
講義(合計)	4,463	-	56,149	3,907	7,178	17,771	18,132	9,161
25人未満	962	-	3,247	345	500	1,012	942	448
25-49人	1,200	-	8,074	782	1,127	2,535	2,292	1,338
50-99人	1,181	-	16,579	1,328	2,402	5,556	4,958	2,335
100-199人	704	-	14,206	815	1,706	4,296	4,937	2,452
200-299人	241	-	6,413	306	682	2,027	2,313	1,085
300人以上	175	-	7,630	331	761	2,345	2,690	1,503
演習	1,077	-	5,510	1,021	982	1,655	1,231	621
語学	2,862	-	17,571	1,360	2,946	6,761	5,297	1,207
実験	232	-	2,753	1,160	457	588	365	183
実技	241	-	1,809	62	84	361	557	745
卒論	33	-	66	55	6	2	2	1
<履修選択別>								
必修	3,341	-	27,399	3,032	4,374	9,520	7,472	3,001
その他	5,644	-	57,024	4,643	7,425	17,834	18,187	8,935
<担当教員別>								
専任	3,717	-	41,245	4,353	5,923	13,290	12,064	5,615
兼任	5,265	-	43,168	3,322	5,874	14,062	13,593	6,317
<科目設置主体別>								
市ヶ谷学部	2,174	-	19,096	1,152	2,346	5,953	6,464	3,181
市ヶ谷教養	2,379	-	18,917	977	2,291	6,094	6,443	3,112
小金井学部	1,267	-	16,358	2,739	2,975	5,457	3,807	1,380
小金井教養	574	-	6,120	870	977	2,159	1,580	534
多摩学部	2,145	-	20,919	1,280	2,482	6,717	6,870	3,570
通信教育	323	-	2,360	552	542	770	377	119
その他	123	-	653	105	186	204	118	40

問3. この授業内容を理解できましたか。(5段階評価でご回答ください)

項目	回答された 授業数	回答した 学生数	回答総数	5 大変理解 できた	4	3	2	1 理解でき なかった
<総計>	8,985	19,122	84,423	27,392	32,823	18,762	3,981	1,465
<学年別>								
1年	-	8,462	45,798	15,381	17,395	10,131	2,147	744
2年	-	5,511	22,742	6,712	9,179	5,253	1,152	446
3年	-	3,513	11,995	3,741	4,832	2,678	547	197
4年	-	1,586	3,792	1,507	1,383	693	134	75
その他	-	50	96	51	34	7	1	3
<科目種類別>								
講義(合計)	4,463	-	56,149	16,762	21,987	13,393	2,928	1,079
25人未満	962	-	3,247	1,282	1,241	541	132	51
25-49人	1,200	-	8,074	2,679	3,121	1,733	376	165
50-99人	1,181	-	16,579	4,312	6,634	4,279	1,002	352
100-199人	704	-	14,206	4,259	5,463	3,451	762	271
200-299人	241	-	6,413	1,888	2,503	1,591	307	124
300人以上	175	-	7,630	2,342	3,025	1,798	349	116
演習	1,077	-	5,510	2,253	2,081	918	181	77
語学	2,862	-	17,571	6,410	6,832	3,387	698	244
実験	232	-	2,753	823	1,132	631	132	35
実技	241	-	1,809	907	563	307	18	14
卒論	33	-	66	33	21	11	0	1
<履修選択別>								
必修	3,341	-	27,399	9,241	10,530	5,917	1,250	461
その他	5,644	-	57,024	18,151	22,293	12,845	2,731	1,004
<担当教員別>								
専任	3,717	-	41,245	13,127	16,258	9,323	1,835	702
兼任	5,265	-	43,168	14,259	16,562	9,438	2,146	763
<科目設置主体別>								
市ヶ谷学部	2,174	-	19,096	6,463	7,600	3,870	855	308
市ヶ谷教養	2,379	-	18,917	6,993	7,180	3,614	826	304
小金井学部	1,267	-	16,358	3,782	6,735	4,543	945	353
小金井教養	574	-	6,120	1,954	2,299	1,498	266	103
多摩学部	2,145	-	20,919	6,915	7,910	4,769	981	344
通信教育	323	-	2,360	924	879	414	92	51
その他	123	-	653	361	220	54	16	2

問4. この授業を履修してよかったと思いますか。(5段階評価でご回答ください)

項目	回答された 授業数	回答し た 学生数	回答総数	5 大変よっ た	4	3	2	1 よくなっ た
<総計>	8,985	19,122	84,423	38,921	24,734	15,387	3,416	1,965
<学年別>								
1年	-	8,462	45,798	21,298	13,273	8,438	1,838	951
2年	-	5,511	22,742	9,853	6,992	4,311	979	607
3年	-	3,513	11,995	5,541	3,591	2,129	460	274
4年	-	1,586	3,792	2,162	864	500	138	128
その他	-	50	96	67	14	9	1	5
<科目種類別>								
講義(合計)	4,463	-	56,149	24,956	16,924	10,627	2,362	1,280
25人未満	962	-	3,247	1,833	815	428	93	78
25-49人	1,200	-	8,074	3,891	2,283	1,384	324	192
50-99人	1,181	-	16,579	6,799	5,233	3,387	764	396
100-199人	704	-	14,206	6,299	4,225	2,689	642	351
200-299人	241	-	6,413	2,688	2,047	1,267	267	144
300人以上	175	-	7,630	3,446	2,321	1,472	272	119
演習	1,077	-	5,510	3,111	1,366	734	168	131
語学	2,862	-	17,571	8,182	5,076	3,158	697	458
実験	232	-	2,753	1,344	778	472	112	47
実技	241	-	1,809	972	447	314	53	23
卒論	33	-	66	48	10	7	0	1
<履修選択別>								
必修	3,341	-	27,399	12,281	8,028	5,261	1,128	701
その他	5,644	-	57,024	26,640	16,706	10,126	2,288	1,264
<担当教員別>								
専任	3,717	-	41,245	19,263	12,291	7,315	1,520	856
兼任	5,265	-	43,168	19,651	12,441	8,072	1,896	1,108
<科目設置主体別>								
市ヶ谷学部	2,174	-	19,096	9,326	5,555	3,052	743	420
市ヶ谷教養	2,379	-	18,917	9,303	5,294	3,150	738	432
小金井学部	1,267	-	16,358	6,260	5,398	3,602	718	380
小金井教養	574	-	6,120	2,617	1,751	1,337	248	167
多摩学部	2,145	-	20,919	9,472	6,116	3,972	879	480
通信教育	323	-	2,360	1,488	480	234	77	81
その他	123	-	653	455	140	40	13	5

## 1. はじめに

2004年度から開始した「学生による授業評価アンケート」は、2005年度よりFD推進センター（現教育開発・学習支援センター）が主催する形として、これまでに17年間実施してきました。アンケートは、2009年度の期首・期中・期末の実施、教員への非公開を担保した記名式の導入を踏まえ「学生による授業改善アンケート」へ名称変更され、2014年度の秋学期よりWeb形式で実施するなど改善を図ってきました。2017年度からは、アンケート項目を5問とする大幅な改定を行い、アンケートは授業内で実施いただくよう、協力をお願いしました。

2021年度春学期は、2021年6月30日（水）～8月3日（火）の期間に実施しました。秋学期は、2021年12月8日（水）～2月8日（火）の期間に実施しました。4期制の研究科は2021年5月19日（水）～6月8日（火）および2021年10月26日（火）～11月15日（月）にも実施しました。

本学の大学院は、人文科学研究科（市ケ谷キャンパス）、国際文化研究科（市ケ谷キャンパス）、経済学研究科（市ケ谷・多摩キャンパス）、法学研究科（市ケ谷キャンパス）、政治学研究科（市ケ谷キャンパス）、社会学研究科（市ケ谷・多摩キャンパス）、経営学研究科（市ケ谷キャンパス）、公共政策研究科（市ケ谷キャンパス）、人間社会研究科（多摩キャンパス）、情報科学研究科（小金井キャンパス）、デザイン工学研究科（市ケ谷キャンパス）、政策創造研究科（市ケ谷キャンパス）、キャリアデザイン研究科（市ケ谷キャンパス）、理工学研究科（小金井キャンパス）、スポーツ健康学研究科（多摩キャンパス）の15研究科と3インスティテュート（国際日本学インスティテュート、連帯社会インスティテュート、総合理工学インスティテュート）から構成され、さらに大学院の専門職学位課程として専門職大学院（法科大学院、経営大学院）が加わります。

2021年度のアンケート対象の全科目数は1,073科目（春学期506科目、秋学期567科目）でした。そのうち、アンケートに回答があった科目数は885科目（春学期435科目、秋学期450科目）であり、結果として修士課程は春学期29.5%、秋学期28.3%の回答率（回答した学生数／回答が想定される全学生数の百分率）、専門職学位課程は春学期41.0%、秋学期34.1%の回答率を得るアンケートを取得することができました。すべてのアンケートデータは巻末に年度、春学期、秋学期別に実数として収録しています。

本アンケートの対象は本学学部・大学院で開講する全科目ですが、少人数制やゼミや研究の授業形態などの理由から博士後期課程には行っていません。また、2021年度は2,110科目のアンケートを非実施としました。非実施科目を科目種別で見ると、講義では726科目（講義全体の45%）、演習では1,047科目（演習全体の85%）、実験では208科目（実験全体の100%）であり、ゼミや研究がメインとなる科目で多くなります。

本年度アンケートを無事に終了できたのは、教職員ならびに各関係者のみなさまのご協力なしでは成し得ないことであり、「授業改善アンケート」を含め教育開発・学習支援センターの活動へのご理解について心から感謝を申し上げます。また、本年度アンケート結果の集計と分析を記した本報告書が、関係者各位の本学における「教育および学びの質の向上」の一助になれば幸甚に存じます。

## 2. 全学集計結果について

本報告書では、5段階の選択回答を求めた問1～問4の単純集計とそれぞれの分析、問3の回答に対する問1と問2のクロス集計とそれぞれの分析、問4の回答に対する問1、問2、問3のクロス集計とそれぞれの分析を記しました。

教育開発・学習支援センターの主たる目的「教育および学びの質の向上」ですが、教職員側と学生側とはその捉えるポイントに少しギャップがあります。そこで、問1～問3に関わる「教員の教授」と問4に関わる「学生の修学」に分け、教職員側もしくは学生側から見える本学授業の現状を理解しやすく示しました。具体的には、「教員の教授」では理解度を問う問3を中心とした分析、「学生の修学」では満足度を問う問4を中心とした分析を行っています。

また、問1～問4の単純集計は学年別、受講者数規模別、担当教員別で集計し、全学平均値と比較した分析を行っています。さらに、アンケート回答傾向の経時推移を見るため、問1～問4の回答平均値と回答学生数の経時変化を示しました。

## 3. 教員の教授に関するアンケート回答について

### (1) 授業の工夫に対する学生の受け止め

「学生による授業改善アンケート」の問1は、授業の工夫に対する学生の受け止めに5段階評価として尋ねています。問いは「この授業では、積極的な工夫がされていましたか。」とし、それに続き、回答へある程度のイメージをもってもらうために「例えば、熱意、授業方法、板書法、スクリーンの見やすさ、話し方、課題や主体的な学びへの促しなど。(5段階評価でご回答ください)」を追記しています。全体の回答割合を見ると、大変工夫していた「5」と「4」を合わせた86.7%の学生が授業に工夫があったと受け止めていました。一方、あまり工夫をしていない「1」と「2」を合わせた3.0%の学生は授業の工夫を求めていました。

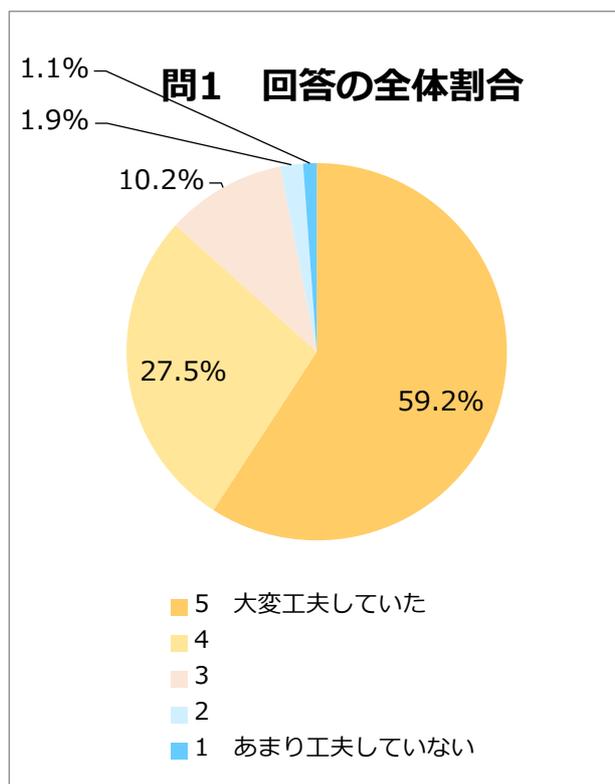


図1

## (2) 授業外での学習への取り組み

「学生による授業改善アンケート」の問2は、授業外での学習への取り組みを5つの選択肢から尋ねています。問いは「この授業に関しては、授業時間につき、平均してどれくらいの授業外学習をしていますか。」とし、それに続き、回答へある程度のイメージをもってもらうために「例えば、予習・復習、課題、授業内容に関する図書・情報収集など、友人や教員との討論や質問も含む。」を追記しています。全体の回答割合を見ると、週1時間以上の授業外学習を行った学生は79.1%でした。一方、授業外での学習をほとんど行っていない学生は5.7%でした。週3時間以上の授業外学習を行った学生は23.7%で、昨年度より減少しました（昨年度：30.1%）。また、学部より多い割合でした（学部：9.1%）。

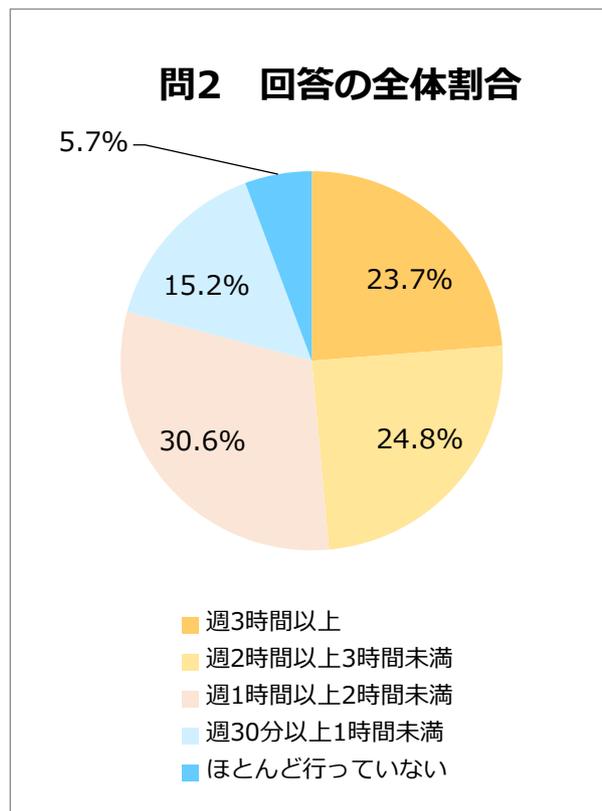


図2

## (3) 講義内容の理解度

「学生による授業改善アンケート」の問3は「この授業内容を理解できましたか。(5段階評価でご回答ください)」として講義内容の理解度を尋ねています。全体の回答割合（春+秋）を見ると、概ね理解できた学生に当たる「5」「4」の回答割合は85.1%でした。一方、理解が困難であった「1」「2」を回答した学生は3.6%でした。

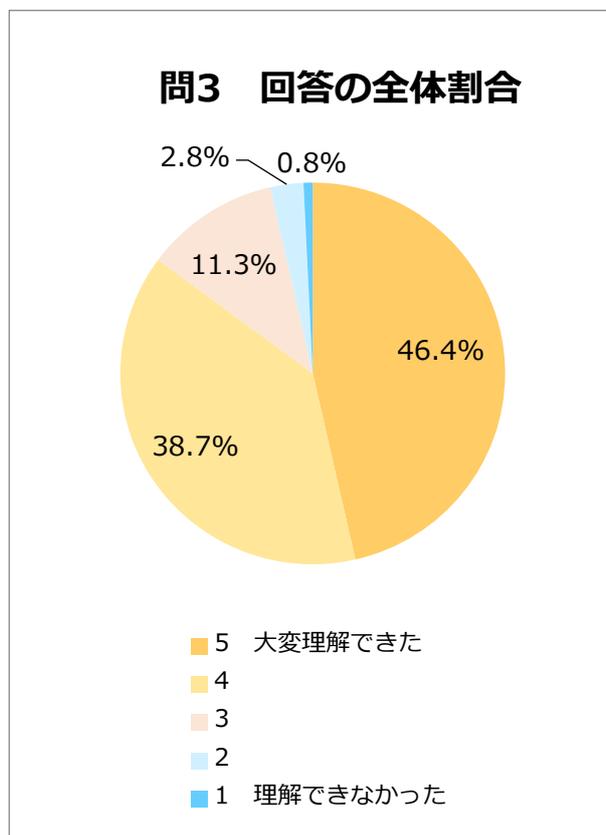


図 3

#### (4) 理解度と教授方法に関する回答との関連

講義内容の理解度と授業の工夫に対する学生の受け止めを調べるため、問3（理解度）と問1（授業の工夫の受け止め）のクロス集計を行いました。視覚的に理解しやすくするため人数が多いセルを緑に、人数が少ないセルを黄色になるようにカラスケールを施しました（以下、同様）。理解度（問3）と授業の工夫（問1）が、無関係（独立）であるかどうかを（カイ二乗検定を用いて）調べると、無関係ではない（有意水準5%において、「独立である」という帰無仮説を棄却）ことがわかりました。クラメールの連関係数は0.47（クラメールの連関係数は、>0.25で強い関係、0.1~0.25で関係あり、0.1<で弱い関係を示す）であり、強い相関を認めました。

表 1

問1 × 問3 (%)		問1 授業の工夫					計
		5	4	3	2	1	
問3 理解度	5	39.7	5.5	1.1	0.0	0.1	46.4
	4	16.9	18.3	3.2	0.2	0.1	38.7
	3	2.3	3.3	5.0	0.6	0.2	11.3
	2	0.3	0.5	0.8	1.0	0.2	2.8
	1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.5	0.8
計		59.2	27.5	10.2	1.9	1.1	100.0

講義内容の理解度と授業外での学習への取り組みの相関を調べるため、問3（理解度）と問2（授業外学習時間）のクロス集計を行いました。問3（理解度）と問2（授業外学習時間）が、無関係（独立）であるかどうかを（カイ二乗検定を用いて）調べると、無関係ではないことがわかりました。クラメールの連関係数は0.14）であり、それぞれの回

答傾向にある程度の相関を認めました。概ね理解できた学生に当たる「5」「4」の回答（85.1%）のうち、週1時間以上の授業外学習を行った「5」「4」「3」を回答した学生は82.0%でした。一方、理解が困難であった学生に当たる「1」「2」の回答（3.6%）のうち、授業外での学習をほとんど行っていない「1」を回答した学生は16.6%でした。したがって、理解度と授業外学習時間には全体として正の相関関係がある程度存在していることが確認できます。相関関係は因果関係ではありませんが、授業の理解度を上げるためには、授業外学習時間が重要になっているとも解釈することができます。一方で、修士論文に直接つながるような科目（「演習」など）の場合は、必ずしも学習時間に比例して理解が深まるとは限らない科目もあるかもしれません。探求を深めるような性質の授業の場合は、必ずしもこれは問題とならないでしょう。

表2

問2 × 問3 (%)		問2 授業外学習時間					計
		5	4	3	2	1	
問3 理解度	5	15.0	12.0	13.2	4.9	1.3	46.4
	4	6.7	10.3	12.6	7.1	2.1	38.7
	3	1.3	2.1	3.8	2.4	1.7	11.3
	2	0.5	0.4	0.8	0.6	0.5	2.8
	1	0.3	0.0	0.2	0.1	0.1	0.8
計		23.7	24.8	30.6	15.2	5.7	100.0

#### 4. 学生の修学に関するアンケート回答について

##### (1) 講義の満足度

「学生による授業改善アンケート」の問4は「この授業を履修してよかったですか。(5段階評価でご回答ください)」として講義の満足度を尋ねています。全体の回答割合を見ると、概ね満足した学生に当たる「5」「4」の回答割合は88.6%でした。一方、不満を示す「1」「2」を回答した学生は3.0%でした。

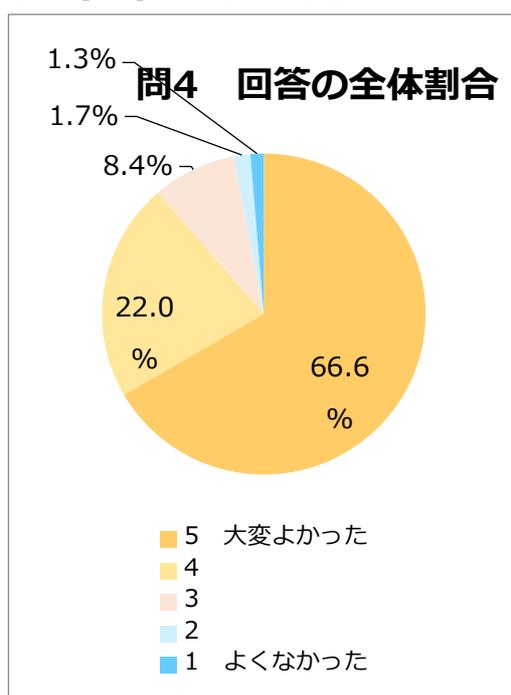


図4

## (2) 満足度と教授方法に関する回答との関連

講義の満足度と授業の工夫に対する学生の受け止めを調べるため、問4（満足度）と問1（授業の工夫の受け止め）のクロス集計を行いました。問4（満足度）と問1（授業の工夫の受け止め）が、無関係（独立）であるかどうかを（カイ二乗検定を用いて）調べると、無関係ではないことがわかりました。クラメールの連関係数は0.55であり、それぞれの回答傾向に強い相関が認められました。概ね満足した学生に当たる「5」「4」の回答（88.6%）のうち、授業に工夫があったと受け止めた「5」「4」を回答した学生は94.8%であり、それに対して授業の工夫を求めた「2」「1」を回答した学生は0.1%でした。これらを踏まえ、全体を俯瞰すると満足と授業の工夫には概ね正相関関係があることが確認できます。相関関係は因果関係ではありませんが、授業の満足度を上げるためには、授業の工夫をすることが重要になっているとも解釈することができます。

表3

問1 × 問4 (%)		問1 授業の工夫					計
		5	4	3	2	1	
問4 満足度	5	53.3	11.5	1.7	0.0	0.0	66.6
	4	5.4	13.8	2.6	0.1	0.0	22.0
	3	0.3	2.0	5.2	0.7	0.1	8.4
	2	0.1	0.1	0.5	0.8	0.1	1.7
	1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.8	1.3
計		59.2	27.5	10.2	1.9	1.1	100.0

講義の満足度と講義内容の理解度との関係を調べるため、問4（満足度）と問3（理解度）のクロス集計を行いました。問4（満足度）と問3（理解度）が、無関係（独立）であるかどうかを（カイ二乗検定を用いて）調べると、無関係ではないことがわかりました。クラメールの連関係数は0.50であり、それぞれの回答傾向に高い相関が認められました。概ね満足した学生に当たる「5」「4」の回答（88.6%）のうち、概ね理解した「5」「4」を回答した学生は93.3%であり、それに対して授業の工夫を求めた「2」「1」を回答した学生は0.7%でした。これらを踏まえ、全体を俯瞰すると満足と授業の工夫には概ね相関関係があることが確認できます。相関関係は因果関係ではありませんが、授業の満足度を上げるためには、授業の理解度を上げることが重要になっているとも解釈することができます。

表4

問3 × 問4 (%)		問3 理解度					計
		5	4	3	2	1	
問4 満足度	5	43.5	20.9	2.0	0.2	0.0	66.6
	4	2.3	16.0	3.3	0.4	0.0	22.0
	3	0.5	1.7	5.2	0.9	0.0	8.4
	2	0.0	0.1	0.6	0.9	0.2	1.7
	1	0.1	0.0	0.2	0.4	0.6	1.3
計		46.4	38.7	11.3	2.8	0.8	100.0

講義の満足度と授業外での学習への取り組みの相関を調べるため、問4（満足度）と問2（授業外学習時間）のクロス集計を行いました。問4（満足度）と問2（授業外学習時間）が、無関係（独立）であるかどうかを（カイ二乗検定を用いて）調べると、無関係ではないことがわかりました。クラメールの連関係数は0.13であり、それぞれの回答傾向にある程度の相関を認めました。概ね満足した学生に当たる「5」「4」の回答（88.6%）のうち、週1時間以上の授業外学習を行った「5」「4」「3」を回答した学生は81.7%でした。このように理解度と授業外学習時間に、全体として概ね正の相関関係が確認できます。相関関係は因果関係ではありませんが、授業の満足度を上げるためには、授業外学習時間がある程度重要になるとも解釈することができます。一方で、修士論文に直接つながるような科目（「演習」など）の場合は、必ずしも学習時間に比例して満足度が高まるとは限らない科目もあるかもしれません。探求を深めるような性質の授業の場合は、必ずしもこれは問題にならないでしょう。

表5

問2 × 問4 (%)		問2 授業外学習時間					計
		5	4	3	2	1	
問4 満足度	5	19.2	18.0	19.6	7.5	2.4	66.6
	4	3.0	5.4	7.2	4.8	1.7	22.0
	3	0.9	1.1	2.9	2.2	1.1	8.4
	2	0.2	0.2	0.6	0.4	0.2	1.7
	1	0.5	0.1	0.2	0.2	0.3	1.3
計		23.7	24.8	30.6	15.2	5.7	100.0

## 5. 各種別におけるアンケート回答傾向について

### (1) 学年別

アンケート回答総数 3,398 件のうち、修士1年生は1,660件、修士2・3年生は406件、その他学生は206件、専門職学位課程1年生は783件、専門職学位課程2年生は166件、専門職学位課程3年生は102件、博士後期課程は75件でした。各学年別の回答集計実数は巻末データ(1)に示しています。各学年別の回答集計実数は巻末データ(1)に示しています。各学年におけるアンケート回答傾向について、問1から問4のそれぞれの回答を「1」～「5」の平均値として算出し、レーダーチャートで全体と比較しました。修士で比較すると、1年と2年以上で授業外学習時間に差が見られます。これは、修士論文の執筆に関連することに時間を費やすことが影響していると考えられます。

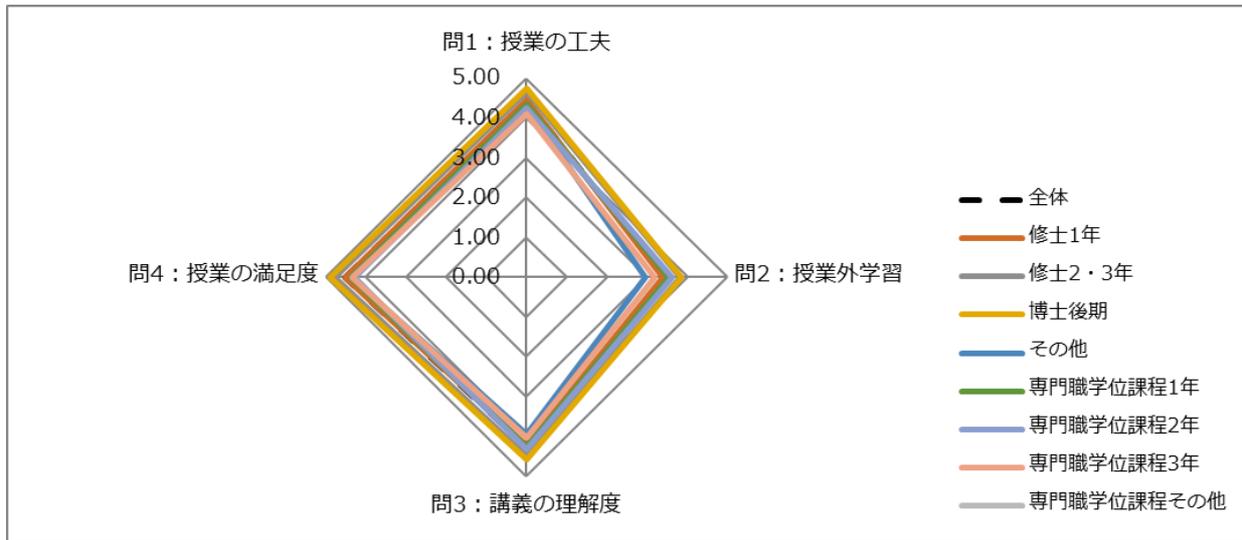


図 5

### (2) 受講者数規模別

アンケート回答総数 3,398 件のうち、10 人未満は 1,088 件、10-24 人は 1,541 件、25 人以上は 769 件でした。各科目種別の回答集計実数は巻末データ (1) に示しています。各科目種別におけるアンケート回答傾向について、問 1 から問 4 のそれぞれの回答を「1」～「5」の平均値として算出し、レーダーチャートで全体と比較しました。25 人以上の授業において授業外学習時間が少ない傾向があります。

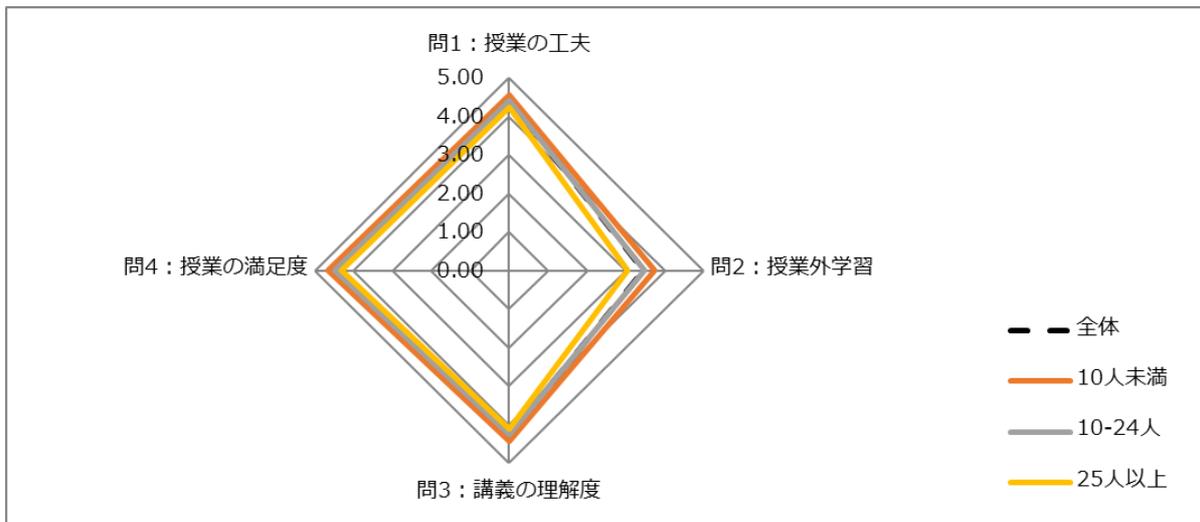


図 6

### (3) 担当教員別

アンケート回答総数 3,398 件のうち、専任は 2,328 件、兼任は 1,070 件でした。担当教員別の回答集計実数は巻末データ (1) に示しています。担当教員別におけるアンケート回答傾向について、問 1 から問 4 のそれぞれの回答を「1」～「5」の平均値として算出し、レーダーチャートで全体と比較しました。授業への理解度と満足度においては、専任と兼任に大きな違いはありませんでした。

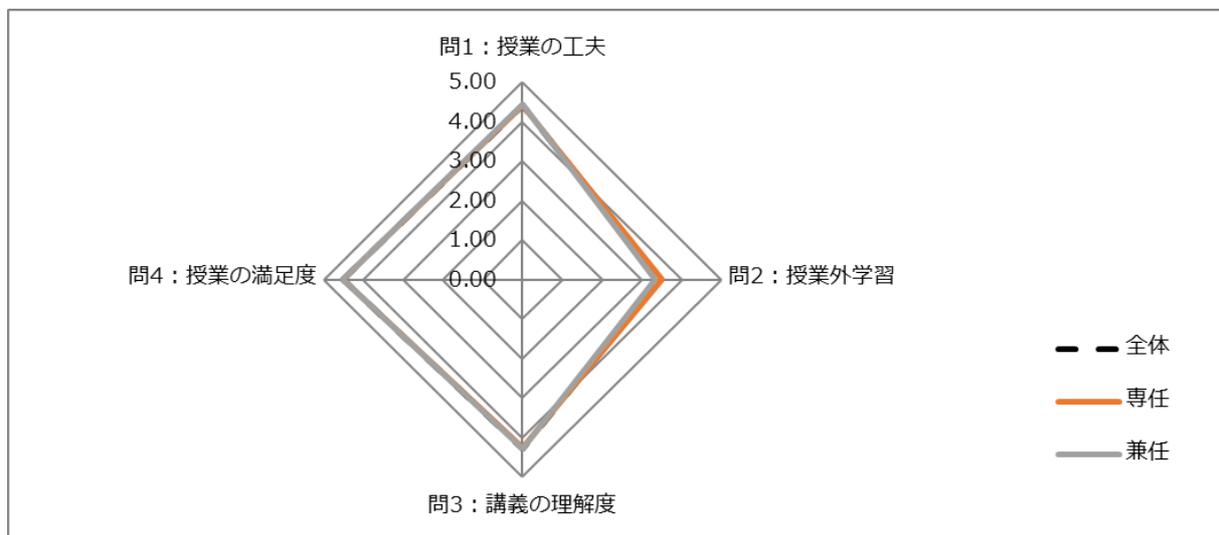


図 7

## 6. アンケート回答傾向の経時推移

回答した学生数の推移を見ると、紙媒体で授業内実施を行っていた2014年度春学期までは約1,000名超でした。アンケートをweb化し、実施時期を期間内任意で行っていた2016年度秋学期までは約300名に減少しました。2017年度春学期から、web化にフィットした新しいアンケート内容に刷新するとともに授業内実施としました。その結果、回答した学生数は増加し2018年度は1,434名となりました。2020年度春学期は法務研究科、イノベーション・マネジメント研究科のみ実施したため、前年度と比較して回答者数が大きく減少しましたが、秋学期に回答者数は回復しました。2021年度は、新型コロナ以前の水準に回復しました。



図 8

各実施時期におけるアンケート回答傾向について、問1から問4のそれぞれの回答を「1」～「5」の平均値として算出し、2017年度春学期からの経時的変化を観察しました。授業の工夫を尋ねた問1は、2021年度春学期の平均値4.38が秋学期でもほぼ同じ4.46となりました。授業外学習時間を尋ねた問2は、2021年度春学期の平均値3.45が秋学期でもほぼ同じ3.47となりました。講義内容の理解度を尋ねた問3は、2021年度春学期の平均値4.23が秋学期でもほぼ同じ4.32となりました。授業の満足度を尋ねた問4は、2021年度春学期の平均値4.49が秋学期でもほぼ同じ4.53とな

りました。問2については、昨年度から減少傾向にあることがわかります。

表6

平均値	2017年度 春学期	2017年度 秋学期	2018年度 春学期	2018年度 秋学期	2019年度 春学期	2019年度 秋学期	2020年度 春学期	2020年度 秋学期	2021年度 春学期	2021年度 秋学期
回答した学生数	668	451	818	616	580	414	78	368	542	459
問1	4.38	4.50	4.36	4.45	4.36	4.49	4.29	4.43	4.38	4.46
問2	3.11	3.25	3.29	3.37	3.23	3.35	3.59	3.60	3.45	3.47
問3	4.17	4.34	4.18	4.25	4.19	4.35	4.19	4.29	4.23	4.32
問4	4.47	4.60	4.45	4.52	4.46	4.55	4.42	4.55	4.49	4.53

## 7. おわりに

教員の教授を中心とした分析から、研究科の学生は（1）本学教員の教授に対する工夫が概ね行われている印象をもち、（2）授業外学習時間は概ね週1時間以上であり、（3）概ね理解したと感じていることがわかりました。また、理解度と教授の工夫には強い正の相関関係、理解度と授業外時間には弱い相関関係を確認できました。理解度と教授の工夫の正の相関関係の因果を考慮すれば、教授の工夫が理解度に影響を及ぼしていると考えられます。本年度は、80%が教授の工夫している印象をもち、かつ理解を示しました。今後は、この割合の増加が期待されます。これらの学生主体のアンケート結果より、教員が取り組むべき授業改善のポイントは「知識・技能の習得」「知識・技能を実践・応用する能力の育成」「自ら問題の発見・解決に取り組む力の涵養」に大別されると考えます。

教育開発・学習支援センターでは、教員に対する「教育の質の向上」の全般をサポートするため、以下のような活動を行っています。また、「授業改善アンケート」の自由記述は各授業に対する学生からの直接の声として、各授業個別に改善などに活用がなされてきています。これらを活用することで、学生の修学に対する積極的な対応が可能だと考えています。

- ・個別授業を支援する制度「授業リフレクションのための学生による授業参観」の提供
- ・ゼミ・研究活動の指導を支援する「ゼミ活動等を対象とした学生向けループリック」の提供
- ・FDセミナー等の開催
- ・英語による授業を支援する「アカデミック・サポートサービス」の提供
- ・論文やレポートに対して剽窃チェックを行うソフト「Turnitin」の提供

教育開発・学習支援センターの目的は「ファカルティ・デベロップメント（FD）を中心に、本学での主体的な教育改善と主体的な学習を効果的に支援すること」と表しています。専門職大学の開設、大学入試制度の改革、卓越大学院構想など、日本国内の大学行政改革が激しく進み中、大学はより高度な知的創造力をもつ人材育成が求められており、大学院が果たすべき社会的役割も変化しています。大学院でのより高度な教育研究に対して、有益なサポートを教育開発・学習支援センターでは行ってまいります。今後とも、「授業改善アンケート」をはじめ教育開発・学習支援センターの活動へのご協力をどうぞお願い申し上げます。

お問い合わせ： 法政大学教育開発支援機構教育開発・学習支援センター (<http://www.hoseikyoiku.jp/lf/>)

事務局 学務課教育支援課 Tel: 03-3264-4268 E-mail: kyoiku@hosei.ac.jp

## 付表 大学院データ：2021年度全学集計表

問1. この授業では、積極的な工夫がされていましたか。例えば、熱意、授業方法、板書法、スクリーンの見やすさ、話し方、課題や主体的な学びへの促しなど。(5段階評価でご回答ください)

項目	回答された 授業数	回答した 学生数	回答総数	5 大変工夫 していた	4	3	2	1 あまり工夫 していない
<総計>	885	1,001	3,398	2,010	936	347	66	39
<受講者数規模別>								
10人未満	483	-	1,088	725	270	73	9	11
10-24人	337	-	1,541	902	426	166	34	13
25人以上	65	-	769	383	240	108	23	15
<学年別>								
修士1年	-	479	1,660	1,005	431	181	29	14
修士2・3年	-	200	406	295	87	21	3	0
博士後期	-	39	75	57	16	2	0	0
その他	-	118	206	99	75	26	5	1
専門職学位課程1年	-	100	783	428	238	79	21	17
専門職学位課程2年	-	49	166	94	38	22	5	7
専門職学位課程3年	-	16	102	32	51	16	3	0
専門職学位課程その他	-	0	0	-	-	-	-	-
<担当教員別>								
専任	597	-	2,328	1,362	643	249	43	31
兼任	288	-	1,070	648	293	98	23	8

問2. この授業に関しては、授業時間につき、平均してどれくらいの授業外学習をしていますか。例えば、予習・復習、課題、授業内容に関する図書・情報収集など、友人や教員との討論や質問含む。

項目	回答された 授業数	回答した 学生数	回答総数	週3時間以上	週2時間以上 3時間未満	週1時間以上 2時間未満	週30分以上 1時間未満	ほとんど 行っていない
<総計>	885	1,001	3,398	807	843	1,040	516	192
<受講者数規模別>								
10人未満	483	-	1,088	332	323	295	96	42
10-24人	337	-	1,541	361	394	465	249	72
25人以上	65	-	769	114	126	280	171	78
<学年別>								
修士1年	-	479	1,660	342	446	487	279	106
修士2・3年	-	200	406	148	99	109	38	12
博士後期	-	39	75	29	15	23	8	0
その他	-	118	206	23	39	70	52	22
専門職学位課程1年	-	100	783	209	160	280	100	34
専門職学位課程2年	-	49	166	47	48	39	23	9
専門職学位課程3年	-	16	102	9	36	32	16	9
専門職学位課程その他	-	0	0	-	-	-	-	-
<担当教員別>								
専任	597	-	2,328	587	597	689	328	127
兼任	288	-	1,070	220	246	351	188	65

問3. この授業内容を理解できましたか。(5段階評価でご回答ください)

項目	回答された 授業数	回答した 学生数	回答総数	5 大変理解 できた	4	3	2	1 理解でき なかった
<総計>	885	1,001	3,398	1,578	1,315	384	95	26
<受講者数規模別>								
10人未満	483	-	1,088	612	365	87	20	4
10-24人	337	-	1,541	668	641	179	46	7
25人以上	65	-	769	298	309	118	29	15
<学年別>								
修士1年	-	479	1,660	742	650	210	52	6
修士2・3年	-	200	406	239	140	20	7	0
博士後期	-	39	75	50	20	5	0	0
その他	-	118	206	57	91	50	7	1
専門職学位課程1年	-	100	783	383	290	71	23	16
専門職学位課程2年	-	49	166	86	58	15	4	3
専門職学位課程3年	-	16	102	21	66	13	2	0
専門職学位課程その他	-	0	0	-	-	-	-	-
<担当教員別>								
専任	597	-	2,328	1,072	915	253	67	21
兼任	288	-	1,070	506	400	131	28	5

問4. この授業を履修してよかったと思いますか。(5段階評価でご回答ください)

項目	回答された 授業数	回答した 学生数	回答総数	5 大変よかった	4	3	2	1 よくなかった
<総計>	885	1,001	3,398	2,263	749	284	57	45
<受講者数規模別>								
10人未満	483	-	1,088	831	179	61	7	10
10-24人	337	-	1,541	1,009	359	127	28	18
25人以上	65	-	769	423	211	96	22	17
<学年別>								
修士1年	-	479	1,660	1,127	349	140	28	16
修士2・3年	-	200	406	332	62	8	2	2
博士後期	-	39	75	69	5	1	0	0
その他	-	118	206	112	62	30	1	1
専門職学位課程1年	-	100	783	472	201	69	23	18
専門職学位課程2年	-	49	166	101	31	24	2	8
専門職学位課程3年	-	16	102	50	39	12	1	0
専門職学位課程その他	-	0	0	-	-	-	-	-
<担当教員別>								
専任	597	-	2,328	1,554	511	195	36	32
兼任	288	-	1,070	709	238	89	21	13